

令和5年度 第1回三木市部活動の在り方検討会議 議事録（要旨）

1 日 時 令和5年7月27日（木）17：30～19：00

2 場 所 三木市役所 大会議室

3 出席者 委 員

森田 啓之 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授

岸本 博介 スポーツ協会理事長

井上 薫 (公財)スポーツ振興基金理事

石田 親吾 三木市吹奏楽連盟理事

松村 正和 三木市合唱連盟会長

前田 義典 小・特別支援学校校長会代表

生田 淳仁 中学校校長会代表

坂田 直裕 中学校体育連盟代表校長

沖 徹也 運動部顧問代表

大橋 純子 文化部顧問代表

藤枝 広起 三木市連合PTA理事

事務局

本岡忠明教育総務部長、鍋島健一教育振興部長、森田真規教育総務課長

手島三知子文化・スポーツ課長、山口正明学校教育課主幹、

村田政宜文化・スポーツ課主事、杉田博久学校教育課学校指導係長

4 検討会議委員への委嘱

5 大北由美教育長あいさつ

6 委員自己紹介

7 会長及び副会長の選出

会 長（ 森田 啓之 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授 ）

副会長（ 坂田 直裕 中学校体育連盟代表校長 ）

8 報告事項

(1) 部活動の在り方検討会議の設置等について

※別紙③について、事務局より説明

(2) 三木市部活動の在り方検討会議設置の目的等について

※別紙④について事務局より説明

9 協議事項

※報告事項等を踏まえて協議。

【各委員からの意見】

国の部活動の地域移行の動向及び三木市の部活動の現状について

(会 長)

- ・生徒数については学校によって違いはあるが、激減していくわけではないのがわかった。

(副会長)

- ・合同チームについては、部員が足りない学校の救済措置であったが、令和5年度からは、新人大会に合同チームで出場した学校については、1年生が入部して総合大会で部員が足りていても継続して合同チームとして参加できるようになった。

(委 員)

- ・やりたい種目がない場合、他の学校で活動することはできるのか。

(副会長)

→個人種目については、学校にその種目の部活動がなくても、在籍している学校の生徒として大会に参加している。団体種目については、令和5年度から拠点校として活動している学校の部活動に参加し、一緒に大会に参加することができるようになっている。また、各種目によって細則が定められているため全てではないが、令和5年度からクラブチームとしても中体連の大会に参加できるようになった。

(委 員)

- ・地域で活動している人数はどれくらいか。

(事務局)

→サッカーなどクラブチームでしか大会に参加できない場合は地域だけの活動をしている(8%【77人】)。ダンスなど地域の活動と部活の活動と時間的にも余裕があり参加できる場合は両方に所属している(11%【106人】)。2割くらいの生徒が地域活動をしている。学校の部活動にない種目をしたい生徒、例えばバドミントンやゴルフなどについては、小学校から継続して取り組んでいる。選択の幅が増えてきており、地域活動を選ぶ生徒も増えてきている。

(委 員)

- ・昔は土日だけ地域活動をしていたが、今は平日も地域で活動をしている生徒が増えてきている。

(委 員)

- ・大会に参加する時に教員が送迎しているという話も聞いているが、地域移行をした時には指導者や保護者が送迎することを考えていかなければならないのか。

(委 員)

→数人なら教員が連れていくこともあるが、基本は教員が連れていかないことになっている。多くは部活動でマイクロバスを借りたり、保護者に送迎を依頼したりしている。バスを借りるなら代金を部員から集金している。

(委 員)

- ・創作動画部は美術部と違うのか。

(委員)

→創作動画部は、イラストなどを描いている美術系の部活動です。

(副会長)

- ・音楽部は、木琴や鉄琴などの楽器を使って合奏したり、合唱をしたりしている。子どもたちの希望に合わせて表現方法を考え、活動している。コンクールには参加できないが、町の納涼大会や学校の文化祭、音楽祭に参加している。

(委員)

- ・生徒の人数が減っている中、創作動画部の部員数は増えてきている。時代とともにいろいろな選択肢が増えている。一方で選択肢が増えると部員が分散して活動が難しくなっているとも感じる。

(委員)

- ・部活動は小学校ではない活動なので、小学生は中学校で部活動をすることを楽しみにしているのではないかと思う。また、小学校では、陸上競技大会や駅伝大会があり、その大会の運営に中学校の教員や陸上部の中学生が手伝ってくれている。先輩の姿を見てあこがれを持つ児童もいる。地域移行が進むと、小学校の大会運営はどうなるかという心配がある。

(委員)

- ・最終的には、文科省が示している通り、地域移行という方向に進んでいくのか。平日の活動はなくなるのか。

(会長)

→国としては部活動をなくしなさいということではないが、地域クラブ活動が平日にも行われることも想定していくと示している。

指導者の確保等について

(委員)

- ・学校の現状としては、教員の中には家族があり、子育てをしている世代もいる。平日も夜遅くまで勤務し、休日も部活動指導をするというのは困難であり、家庭の事情で部活動を担当できない教員もたくさんいる。部活動補助員として外部から指導者に来てもらい、対応をしている。部活動補助員は専門的な知識もあり、活動も活発となるが、補助員を増員する方向で進んでいくのなら市がかなりの予算を立てないといけない。また、指導者を確保することも難しい。学校部活動の大切さについて学校職員はみんな分かっているが、働き方としては難しいということも踏まえて議論を進めていけたらと思う。

(委員)

- ・土日は指導者の確保ができて、平日4時頃から指導ができる人を確保するのは厳しいのではないかと思う。生徒たちがめざすべき大会についても、今は中体連として教員が運営しているが、中体連がなくなって、それに代わる大会が協会や地域クラブの方でできるのかもわからない。

(委員)

- ・スポーツ協会で部活動の指導ができるか、指導者を十分に確保ができるかと考えると

難しい。自分の競技と協会の運営だけでいっぱいである。卓球やバドミントンなど、個人競技は子どもを指導しながら、活動はできるかもしれないが、団体競技になると難しいのが現状である。

(委員)

- ・合唱連盟として、中学校からも会員登録してもらっていたが、人数が減ってきていることや指導者不足であること、またコロナのこともあり、練習ができていないため、今は休会の形となっている。生徒の人数が減ってくれば合同でということも考えられるのだろうが、外部指導者をどのように集めていくかが重要かと思う。現職の方は難しいと思われるので、退職された方をお願いすることになるのかと思う。

(委員)

- ・現実的に今の部活動を地域の人が平日にサポートしていくことは難しい。

(委員)

- ・指導をしたいと思っている教師もいるので、平日の指導については教師でも対応できるのではないかと思う。中には自分でクラブ活動を立ち上げて取り組みたいという教師も出てくるかと思う。そうなった時に対応できる兼職兼業制度の整理も必要になる。

(会長)

- ・希望する教員は、クラブ活動好きとして地域の一員として、参加できる仕組みは作っていくべきである。あの教員は活動して、この教員は活動してくれていないといった評価にならないように、あくまでも教師とは違う立場でやっているといった周知を丁寧に進めていく必要もある。

部活動の活動内容等について

(委員)

- ・吹奏楽についても部員が少なくなっており、高校でも合同で演奏会に参加しているというのが現状である。学校合同で一つのチームを作るというのは、生徒のやりたいという意志を尊重するという点においてはよいと思う。しかし、練習場所や使用する楽器をどうするのか、学校を借りるとしても施設管理をどうするのかといった課題が考えられる。

(委員)

- ・美術部や家政部は個人で活動することが多い。表現方法もさまざまで、自分でしたいことを考えて取り組んでいるので、ばらばらに活動している中で、指導者が来ていただいても一斉の指導は難しく、地域の方に指導をお願いする場合は綿密な打ち合わせが必要になってくる。例えば、土日や長期休業中に専門講座という形で、指導してもらい、1つの作品を作ったり、絵の具の使い方を学ぶという形で指導してもらったりするのもよいかと思う。

(委員)

- ・保護者の立場としては、部活動はお金がかからないものであるというイメージがある。それは教員のご厚意のおかげであるが、これからは難しいと感じた。部活動で勝つことを求める生徒と楽しむことを求める生徒とが一緒に活動するので、両方をうまく進めていける方法を考えられたらと思う。

(会 長)

- ・レベル別に活動を整理するなどし、上達したい、練習をしたいという生徒のニーズにどのように答えていくかも市として考えていく必要もあるかと思う。現実の部活動に参加している子どもたちの思いを平均的に捉えたらどうなのかを知ることでもある。

(会 長)

- ・今の学校部活動を、例えば平日4日、休日1日の計5日間の部活をそのまま地域に移行するという考え方で捉えない方がよい。今のものを右から左に移すというイメージの地域移行ではなく、新たな展開として考えていくというように捉えていくと議論の内容も変わってくるのではないかと思う。今の平日の部活動と同じことを地域の方が行うのは不可能である。

(会 長)

- ・学校内で異学年で楽しく活動できるようなものがあればよいと感じている生徒もたくさんいる。勤務時間範囲内で教師も生徒も無理のない範囲でできる部活動を新しく構築する。または、部活動については、学校は完全に切り離すといった具体的なことも議論をしていく必要があるかと思う。

今後の予定について

(会 長)

- ・三木市は方向性を具体的に最終的なところまでイメージして、進めていこうとされている。

(委 員)

- ・指導者の人材確保、活動場所の確保、保護者の負担にならないような費用面の工夫など、いろいろな課題があり、何から手を付ければよいか難しい。市がめざすのに、どの部分に焦点を当てて考えていくかを決めないと話を進めていけないのではないか。

(委 員)

- ・どのようなガイドラインを作る予定なのか。部活動をやりたいと思っている教員もいれば、専門外の部活動の指導で大変だと感じている教員もいる。そういった状態で、どのようなガイドラインが作れるか。指導者をたくさん確保していくといった努力目標くらいにしかガイドラインには書けないのではないかと不安に思う。

(事務局)

→実際に廃部となる部活動も出てきており、三木市としても喫緊の課題だと考えている。ギリギリの人数でやっていくのは子どもたちも教員も大変であると考えられる。部活動を続けていくだけではなく、地域展開について検討し、できる限り子どもたちが幅広く選択し、持続可能な活動を進めていけるような方向性を見つけていけるように、ご意見をいただきたい。

(委 員)

- ・「三木市における今後の学校部活動の在り方」と「持続可能な文化・スポーツ振興と地域クラブ活動の展開について」の大きな差がよくわからない。

(事務局)

→部活動はいきなりなくすことができるものではなく、継続していくことを検討していく必要がある。合同チームのことや外部の方に指導をお願いしていくにはどうすればよいかという意見を委員に伺いたい。また、学校での部活動として継続していくことは難しくなっているため、地域での活動ができるのであれば、小中高生と大人までいろいろな人が関わり、一緒に活動することで地域の活性化にもつながっていく。第1回目の会議のため、柱が2本あるというイメージを持っていただけたらと考えていたが、共通な課題が出てくるかと思うので、併せて意見を出していただけたらと思う。

(事務局)

→学校で今やっている部活動を地域にそのまま移行するというイメージだけではなく、例えばゴルフであったりダンスであったり、学校にはない新たな活動を地域で展開できるのではないかとこの視点も大事であると考えている。

(会長)

・例えば、新しい種目の活動をチャレンジ的にしてみたり、拠点(エリア)ごとに活動を展開していくなど、三木市として10年後に中学生も含めてどのような文化・スポーツ活動がされているのか、めざすべき具体的な全体的なビジョンを作る必要がある。国としては、今後は学校教育ではなく、社会教育活動、生涯教育事業として展開していくという方向性が示されていると見て取れる。その方向性で進んでいくといった覚悟をもって議論していくかがポイントになる。その上で、三木市として財政的な部分は学校教育サービスではなく、社会教育サービス、生涯教育サービスとして、あるいは福祉サービスとしてどのように確保して行っていくのかという点で議論をする必要がある。次に具体的にどういった場を設定するか。三木市の現状としては、例えばこの団体種目は人数的に厳しいので、市でチームをひとつ作って活動を行うということも出てくるかと思う。三木市で持っている資源でいかにできるのか。いろいろな議論が必要になってくると考えている。新しい種目の活動をするのは今の活動をしている種目の人数を取ってしまうことになる。今でさえ少ない人数でやっているのにさらに厳しくなるので、そういったことも含めて検討を進めていく必要がある。

(会長)

・最初に「三木市の持続可能な文化・スポーツ振興のイメージ像」を作ったうえで、そこからできることを考えていく方が議論しやすいかもしれない。

(会長)

・運営団体、実施主体はどうするのか。登録団体、チーム等を統括する組織は必要になってくる。誰がするかを議論していく必要がある。

(会長)

・5年後、10年後、三木市としてはこうしますと示すことでみんな同じ方向を向くことができる。今の部活動のイメージは強いので、保護者も地域も子どもも緩やかに意識を変えていくために示していくことは良い。

(会長)

・事務局のほうで取りまとめて、次回には焦点化した議論ができるように準備願う。